

会 議 録

1 会議名

令和6年度第3回安塚区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

○自主的審議事項（公開）

（1）自主的審議事項について

○協 議（公開）

（1）地域自治推進プロジェクトに係るアンケート調査について

○その他（公開）

3 開催日時

令和6年7月23日（火）午後6時30分から午後7時54分まで

4 開催場所

安塚区総合事務所 301会議室

5 傍聴人の数

0人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く。）の氏名（敬称略）

・委 員：池田正文、和泉達郎、岩崎博夫、新保良一、滝沢祐介、中村真二、松野正隆
山岸まり子、横尾広明、吉野誠一

・事務局：安塚区総合事務所 今井所長、山崎次長、小林市民生活・福祉グループ長
（併教育・文化グループ長）、内田班長、本山会計年度任用職員

8 発言の内容（要旨）

【吉野会長】

- ・会議の開会を宣言
- ・秋山富大委員、池田康雄委員の欠席を報告
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

本日の会議録は、内規により私の方で対応する。

それでは、次第2自主的審議事項（1）について、から議事を進めていく。和泉委員から前回趣旨説明をしていただいた。今回、具体的な資料の提出があったので、それについて説明を求める。

【和泉委員】

資料No.1により説明。

【吉野会長】

ありがとうございました。

併せて、事務局に対し、「旧安塚中学校の利活用」について、他団体等から同様の要望書等が提出されていないか調査するよう依頼したが、事務局から結果報告を求める。

【内田班長】

事前に配布した、「旧安塚中学校校舎を活用した不登校特例校の設置について」の要望書が令和6年4月19日に安塚区町内会長協議会、NPO 雪のふるさと安塚などの連名で市と教育委員会に提出されていた。内容は、旧安塚中学校をそのまま活用して、不登校の特例校の設置を要望している内容となっている。

なお、上越市では、不登校または、集団への適応が難しいなどの学校生活上の悩みを抱える児童生徒に適した多様な学びの場を整えるため、識見を有する人等から意見を聴取する場として、「上越市学びの多様化検討委員会」を開催している。会議の内容は非公開となっているが、情報提供の資料を配布したので内容等の概要を確認いただきたい。

【吉野会長】

ただいま、不登校特例校の設置ということで、説明をいただいたが、主意書もない要望書であるが、狙っていることは理解できる。そのまま（校舎を）使えば、そんなに投資をすることなく使えるのではないか。

和泉委員からも説明をいただいたが、皆さんから質問はあるか。

【和泉委員】

4月に特例校設置の要望書が出ているが、それに対して、今の状況はどうなっているか。

【内田班長】

市に要望書は提出されているが、それに対しての動きはない。

【吉野会長】

最近は文科省が、学びの多様化学校ということで、各市に一枚ずつ設置するよう進めている。上越市では、「学びの多様化検討委員会」が開催されているが、非公開の会議で

あるため内容がわからない。和泉さんの資料を見ると、内容は理解できるが、実現性に疑問が残る。例えば、ラーメン屋さんなど出店する場合、本当にやっていけるのかどうか、リサーチをどのようにやるのかなどの問題もある。楽にやれるとすれば、学びの多様化学校を誘致できればよいが、三和区でも来年小学校が統合し、空き校舎の利活用の方法について、地域協議会でも話題になっているようであるが、早く手を挙げた方が有利ではないかと思う。和泉さんの案と不登校特例校をうまくコラボした形で考えられな
いかと思う。皆さんの考えはいかがか。

【池田正文委員】

市の方では、廃校となった学校をどのように利用していきたいか、意思表示はされているのか。

【吉野会長】

廃校になったということは、学校としての設置条例が廃止されているため、普通財産となる。貸付や売却などしてお金に換えるのが優先である。しかし、地域がその施設を地域の活性化のための施設として、利用してほしいとなれば、市は耳を貸さないわけにはいかないだろう。逆に喜んでそれを聞き入れてくれるのではないか。

【池田正文委員】

和泉さんの資料も見させてもらい、考えもお聞きしたがいい考えだと思う。ただ、だれが責任をもってやるのか。整備や維持していくにも資金が相当かかる。それを考えると、会長の話されたことになるかと思う。

【和泉委員】

NPO雪のふるさと安塚が中心となって施設を運営したらどうか。市としての運営は、限界があるので、民間団体がやる方がよいのではないか。

【池田正文委員】

やすづか学園が、旧安塚中学校を利用すれば良いのではという話を聞いたことがある。社会福祉協議会が運営しているので、うまくいくのではないか。今、菱里地域で支援委員会を組織しているが、高齢化により、支援も大変な状況である。旧安塚中学校を利用することになれば、安塚区全体で支援することができる。

【松野委員】

会長が言われたように、特例校と和泉さんの考えをどこでコラボできるのか検討していけばよい。やすづか学園も子供たちが増えている。収穫祭など実施すると親子併せて1

00人以上の規模になってきている。旧安塚中学校を利用したとしても、特例校がすべて利用することは考えられないので、和泉さんの考えと併せて検討すべきである。ただ、NPOが運営するには、資金的に厳しいが、どこかとコラボすれば可能ではないか。

【新保副会長】

学びの場と、不特定多数の方が利用する施設が同じ施設で運営できるのか。難しいのではないか。

【吉野会長】

難しいことだが、避けては通れない問題である。どのようにコラボできるか、検討しなければならない。新しい和泉委員からの提案である。今出ている要望とうまく連携をとれないか、地域協議会として検討しなければならない。地域協議会として議論はできるが、実施主体はどうなるのか、共同の要として、地域協議会がどこまでかかわれるのか、難しいところである。

【和泉委員】

特例校と一緒にできればよいと思う。子供たちの社会勉強の一環としてかかわり、人と触れ合うことによって、社会適応性がついていくのではないか。ただ、先ほど副会長がいわれたように、組織が違うため融合できるのか、疑問もある。

【吉野会長】

学びの多様化学校は文科省の管轄で、カリキュラムを作ってやることになる。やすづか学園は社会福祉法人であり、全く違う。やすづか学園は少しずつ市内から通う子供も増えており、機能を旧安塚中学校へ移すだけでも、中学校の使い方としては良いだろう。現在使用している菱里地域生涯学習センターも老朽化してきている。

【松野委員】

建物もそうであるが、応援している地域の人たちも高齢化している。

【吉野会長】

今の支援委員会は高齢化しているため、安塚区全体で支援していく仕組みづくりを考えなければならない。

この件は、今日段階では、結論がでないので、もう一回先送りするので、皆さん来月までそれぞれ考えてきてほしい。

【松野委員】

検討するにあたり、浦川原区にあった「ゆあみ」が閉鎖する前にどれくらいの費用が市

から投入されていたか、調べてもらうことは可能か。建物の規模としては、同じようなものかと思う。

【今井所長】

可能である。

【横尾委員】

とにかく、どうやって集客するか。土日だけでなく平日も集客できるものが必要である。うまく運営しているところに代表者が視察に行ってもよいのではないか。「月影の郷」なども参考になるのではないか。

【和泉委員】

やるには、屋内施設が必要である。ここは、雪が多い地域でもあり、このところの夏の暑さで、子供を遊ばせるところがないという子育て世代の声もある。屋内で遊ばせるところがあれば、絶対に人は来ると思う。土日にどこに連れて行って遊ぼうか悩んでいるとも聞く。

【横尾委員】

せっかく雪冷房もあるのだから、利用できれば良い。

【吉野会長】

一番問題になるのは、実施主体がどこになるかだと思う。

【和泉委員】

公募はできないものか。

【吉野会長】

財源的な面も含めて、「NPO雪のふるさと安塚」とも調整する必要がある。他の地域の状況を見ると、地域協議会、町内会、住民組織、この3者がうまく話し合いができないところが多い。特に、町内会が強く、難しいところが多い。安塚については、うまくやっていけるように、私も努力しようと思っている。3者での話し合いが大切だと考えている。また、事務局とも相談しながら、進めていきたい。この件については、これで終了する。次回、自主的審議事項とするかどうか決定したい。

【内田班長】

今ほどの件で、「月影の郷」と「ゆあみ」の経費については、次回までに調べて報告する。

【新保副会長】

この件は、次回に決定することで決まったが、和泉さんの資料には「安塚中学校再利用に関する思考過程」となっているが、実際出店を希望する方や、校舎を利用したいという方はいるのか。和泉さんだけの構想か。

【和泉委員】

このような話をすると、いいねと言ってくれる人はいるが、積極的にやってみようという人はいない。私の構想である。

【吉野会長】

次に、次第3協議事項（1）地域自治推進プロジェクトに係るアンケート調査について、事務局から説明を求める。

【内田班長】

資料No.2について説明

【吉野会長】

聞けば聞くほどわからなくなる内容だ。例えば、区域の問題になると、行政区画の問題である。上越市の理想的な職員数は、1,950人で今努力している。そうになると、人員の関係で、将来的にはどうしても区域を変更しなければならない時期がくる。そういうところをどう考えているのか、あるいは、総合事務所と地域協議会は地域自治区の中で、一対で動いている。その区域を変更する場合、地域協議会をどうするのか、何も説明がない。また、「公選制についてどう思いますか」という問いがあるが、公選制は地域協議会の生命線である。地域協議会の決定は、その区的意思としてゆるやかな拘束力を持つ、その制度的保障が公選制になっている。その保障についてどうなるのか全然書いてない。そのあたりについて、所長いかがか。

【今井所長】

各自のお考えを記入いただきたい。ご心配な部分については、自由記載欄に記入していただきたい。

【吉野会長】

ただ、これが来年度に制度設計される。意見を言えるのはこれだけで、その後、地域政策課の方針として出てきたら、変えようがなくなってしまう。できれば、ヒアリングに来てもらえると良いが、回りきれないのも実態であろう。非常に難しいが、皆さんよく考えて期限までに提出いただきたい。

皆さんから質疑はあるか。

【横尾委員】

何を聞きたいのかよくわからない。

【和泉委員】

経験値が少ない分、回答が薄くなってしまう。

【内田班長】

わからないことがあれば、電話でもメールでもよいのでお問い合わせいただきたい。

【吉野会長】

私の所でもよい。わかる範囲で回答する。

【今井所長】

今回、改選があったため、アンケートは5期の委員さんにも配布している。

【吉野会長】

もう一点お聞きするが、地域の一括予算みたいなものを創設したらどうですか、みたいなものが、アンケートの中にあっただが、平成18年か17年頃からソフト事業に限って事務所は自由に使える地域振興事業という予算がなかったか。今も継続していないか。

【今井所長】

今はない。

【吉野会長】

もし、新しい予算形態を創設するとしたら、かつての地域活動支援事業みたいに、均等割り7、人口割3くらいの傾斜配分をしてもらわないと、小さな区はつらい。

【今井所長】

元の制度に戻してほしいとの意見があれば、それを書いていただきたい。

【吉野会長】

質問等がないようなので、以上で地域自治推進プロジェクトに係るアンケート調査についての協議を終了する。

次に、次第4その他の次回の地域協議会開催日を確認する。第4火曜日であれば、8月27日（火）であるがよろしいか。開催時間は18時30分からとする。

（全員了承）

会議の閉会を宣言

9 問合せ先

安塚区総合事務所総務・地域振興グループ TEL : 025-592-2003 (内線 23)

E-mail : yasuzuka-ku@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料も併せて御覧ください。